

都の風

MIYAKO NO KAZE

春
号

2015年 No.41

- 発行／都会メディカルケアシステム 渡辺 康介
- 編集／地域広報委員会 京都市北区大宮南田尻町59番地
- ホームページ／<http://www.miyakokai.or.jp/>
- お問い合わせ／info@miyakokai.or.jp

理念

- 患者様・ご利用者様の立場にたったキュア(医療)・ケア(介護)を提供いたします
- 医療・介護・福祉を通して地域、社会に貢献いたします
- 職員の質の向上をはかります



小牧 はま子様 100歳
生年月日 大正4年2月16日 北区在住



医療法人 社団 都会
理事長 渡辺 康介



西賀茂診療所モノ語り(その2) ～S字フック～

私はS字フック。在宅医療の現場にはいろいろな物語が交錯しています。患者さんを主役に同居家族や近くの親戚、遠くの親戚、医療や介護のスタッフ、近隣住民やいろんなモノが脇役となり在宅劇場が始まります。私も脇役の一人です。いつもは往診鞄の中に入っていて中々出番がありません。脱水や発熱の患者さんが出た時が私の出番です。家の鴨居にある釘にヒヨイと掛け点滴をぶら下げるために使われます。最近は余り出番がありません。と言うのも最近はクリーニング屋さんが使う金属の針金ハンガーに取つて代わられているからです。気軽にどこでもあり変幻自在に変形できる便利なツールです。引退の時期も早いかなと思っています。なにせ相手は無料。最近クリーニングされたYシャツには必ずついています。地味な私ですが活躍する時は少し緊張感があります。いつも我慢で利用されることはなく点滴セット君とセットでお仕事をさせてもらいます。

ある時なんかとても緊迫したムードがありましたね。1年前からいつも外来に通院されていた患者さんが癌という病気でちよこちよこ入院されていました。「もう長くは生きられない」という認識が、家族の間でできていたのでしょう。家族からは「オカーサン」と呼ばっていました。そのうちに私の入った往診鞄を持ったご主人様が往診するようになりました。オカーサンはだんだん口数が少くなり寝る時間が長くなりました。そしてオカーサンは次第に食べられなくなりました。オトーサンは往診に来たご主人様を捕まえてこう言いました。 次ページへ

No.41

研修報告

昨年、認定看護管理者ファーストレベル研修を受講させて頂きました。大学病院から、中小規模の病院まで、看護師長、主任、今後管理職を目指すスタッフが74名受講しました。講義やグループワークを通して、自己の課題を導き出し、自分の置かれている立場を見つめ直す良い機会となりました。

少子高齢化が進む中で、医療依存度の高い方が在宅に移行するケースが多く、訪問看護師の役割が深く求められています。当ステーションは看護師が14名と大規模な訪問看護ステーションであり、訪問看護認定看護師、緩和ケア認定看護師、保健師が在籍しており、学ぶ環境にも恵まれています。

当ステーションが地域の中心となり、利用者様が安心して在宅生活を継続していくよう、そのお手伝いをさせて頂くスタッフの育成に力を入れていきたいと考えています。また、スタッフ一人一人が働きやすく、お互いの思いを共有でき、信頼し合える環境作りを行っていきたいと思っています。

今回学んだ事を、ステーションの発展に活かせるよう、日々努力していきたいと思います。自分自身もさらなるレベルアップの為、セカンダリーレベルの研修にも是非参加したいと思います。

訪問看護ステーションにしがも
ファーストレベル研修を終えて

訪問看護ステーションにしがも
奥村 由香理

認定看護管理者
訪問看護ステーションを目指して

第14回近畿介護支援専門員協会
和歌山大会に参加して
和歌山大会に参加して
全国大会 in 和歌山

グループホームほっこり庵
徳田 雄亮

福富先生の講義には以前も参加させて頂いたこともあり、今回の研修は大変楽しみにしていました。議題は「理想の支援」ということで、少し難しく印象を受けていましたが、それでも活躍の安川先生の講演を聴きました。在宅の看取りの話とその時々に感じられた事を歌われ、先生の語りかけの歌声に温かさを感じました。又、和歌山で90歳の現役で助産婦の仕事をされている坂本フジエさんが、長年の経験談を話されました。「生まれたときは、赤ちゃんの顔を見ながら『大変やかましい一生頼みます』と声をかける。お年寄りが亡くなっていくときは一生の仕事を終える時だから『ありがとう』という気持ちになる」とも。「赤ちゃんは、小さい時お母さんが、十分スキンシップをとる事でその後のその子の成長が変わる」と話をされました。90歳と高齢なのに現役で仕事をされている説得力とパワフルな生き方に感動しました。

二日目の講演では、「地域における看取りのケアマネジメントを考える」をテーマにした事例発表を聞きました。看取りの現場でケアマネジャーとして何が必要で何が出来るか・どう関わっているべきかそして多職種連携の必要性を改めて感じました。

今後もご利用者の気持ちに寄り添つた関わりを持つていきたいと思います。



今回の研修で私が感じた大切なことは、理想論をそのまま終わらざないうことです。全てが出来なくて、少しでも出来る事があるのではないかでしょうか。また今出来なくても、もっと知識や技術を習得することにより出来るようになるかも知れません。まだまだ経験の浅い私ですが、今後も理想を忘れず、また理想に近づけるように日々の支援を行い、ご利用者の笑顔に寄り添つて行きたいと思います。

『社会福祉に関する
人のための心構え』
理想の支援

「先生、やっぱり点滴してやつてもらえないですか?」ご主人様は死期が近づいている今点滴しても病状は好転しないよ、みたいなことを言つていました。がオカーサンの診察が終わつた後オトーサンはこう切り出しました。「オカーサンはでもお願ひしようか?」オカーサンはしばらく黙つていましたが、やがてゆつくりとうなずきました。浮腫みや痰液することになりました。いつものようによくどこからこの点滴を吊るすか、みんなで知恵をしぼりました。状況はかなり深刻だつたのですが、あちこちを皆で搜しよつやく鴨居にある釘を見つけました。そこで私の出番です。往診鞄の底にいる私をご主人様は手探りで引つ張り出し、有無を言わせず鴨居の釘に引っ掛けました。そして点滴を私の曲線部につるし輸液を開始しました。しかしながら点滴開始から1週間も持たずオカーサンは旅立されました。ご主人様が看取りに伺つた時オトーサンは私にも聞こえるように「やれることは、すべてやりました。有難うございます。」と。帰りの車の中でいつもは余り点滴を好みないご主人様が呟いた一言が「点滴つて奥深いなあ」でした。あの点滴は脱水補正の為でもない、薬の投与の為でもない、オトーサンのための点滴だつたのかもしれません。

5月17日日曜日 みやこかい祭り決定

模擬店 フリーマーケット 医療・介護相談 福祉用具の展示
イベントなど考えています。お楽しみに!



おせっかいカフェ

毎月第2土曜日(9:00~12:00)に
みそのばし801広場にて介護相談や
健康体操など行っています。
参加は無料ですので是非、ご参加ください。

1月



2月



3月



一乗寺ほっこり庵の誕生会

1月、一乗寺ほっこり庵では、二人の入居者様が誕生日を迎えられました。

これまで誕生日は、毎年ケーキでお祝いをしてきたのですが、度々一乗寺に足を運んで下さるご家族様とご一緒に祝いが出来ればと考え、みんなでお鍋を囲んでの食事会が実現しました。

開所から7年が経ち、入居者様の心身の低下にも加速がついてきました。お元気で迎えられるお誕生日はご本人様だけではなく、ご家族や我々スタッフにも大切な記念日となることでしょう。どうぞお元気で一年をお過ごし下さいと願わざにはいられません。



都会和太鼓クラブ活動報告



平成12年7月、西賀茂デイサービスセンターに入職して夏祭りで和太鼓を皆さんに披露して以来 西賀茂デイでは、和太鼓演奏が名物になりました。その後平成23年につるさんかめさんに異動し、つるかめでも和太鼓を演奏するようになりました。平成26年4月念願だった和太鼓クラブをようやく発足することができました。発足を機に御園橋商店街のイベントを中心とした地域での演奏も今迄以上に積極的に参加しています。

和太鼓の音はお腹の底に響き、血が湧き立ちます。笛や鉦の鳴り物が入ると心がウキウキし、お囃子の音が日本の原風景を思い起こさせます。

クラブの面々(スタッフ)は、そんな太鼓の魅力に惹かれ、とにかく一生懸命を身上に、利用者様の喜んで下さる笑顔を何よりの楽しみにこれからも

一打入魂!! 頑張ります。

代表 つるさんかめさん管理者 宮迫京子

事故防止対策委員会の活動について

各事業所の事故防止対策委員が、月に一回都会本部に集まり、事故防止対策委員会を開いています。

まず、各事業所内で発生した事故を報告し情報を共有します。その後、事故の分析を行い、事故に対する対策案を提案します。事故防止対策委員会で話し合われた分析結果や対策案を事業所へ持ち帰り、事業所ごとに、事故の再発防止や事故を未然に防ぐ取り組みを行っています。

また、年に二回事故防止対策委員会主催の研修会を開催しています。都会では、事業所ごとに事故を防ぐための様々なルール(基本ルール)が決められています。今年度の研修会は、基本ルールがなぜ重要なのか自分達で考え、何故基本ルールが守れないかを話し合いました。

都会を利用するすべての利用者様が、その人らしく主体的に過ごせ、そして安心、安全な暮らしを継続できるよう、これからも事故防止対策委員会が、その環境作りに、委員全員で取り組んで参りたいと思っております。

事故防止対策委員会委員長 濱口 史郎